

令和2年10月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

いちごにおけるハダニの防除対策の徹底について

夏場の高温乾燥の影響により、定植後のハダニ類の多発が懸念されます(図1)。本虫は高温乾燥で発生が助長され、1ヶ月予報(9月24日・福岡管区気象台発表)によると、気温は平年並(40%)、降雨量は少ない(40%)と予想されています。当面、ハダニが発生しやすい気象条件が続くと考えられるため、圃場内での発生状況には注意し、生育初期の防除を徹底して下さい。

【作物】 いちご
【病害虫】 ハダニ

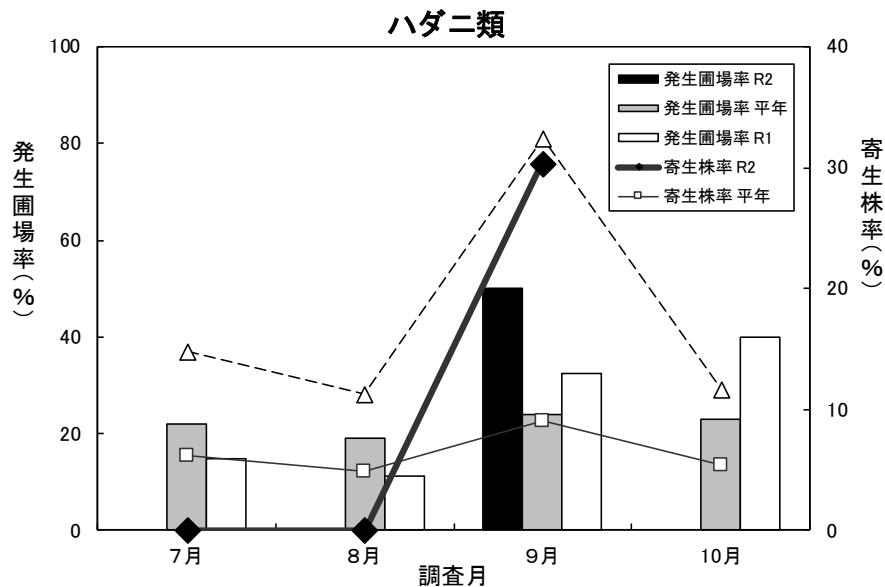


図1 イチゴにおけるハダニ類発生推移
(7月から8月は育苗圃調査、9月は育苗圃および本圃での調査)

防除上の注意事項

- ア 本虫は高温乾燥条件で多発しやすく、本圃では10月のビニール被覆後から増加しやすくなる。寄生密度が上昇してからでは防除が困難となるため、ルーペ等を用いてよく観察し、早期発見に努めて速やかに防除を実施する。
- イ 本虫は紫外線を嫌って下葉の裏に多く生息するので、薬液が葉裏にかかるように丁寧に散布する。また、短期間に複数回散布すると効果が高まる。散布は曇雨天時を避け、薬剤が速やかに乾く晴天時に行い、薬害に注意する。
- ウ すでに多発生が認められている圃場では、気門封鎖剤を中心に複数回防除を行ってハダニ類の密度を下げた後から天敵（カブリダニ類）を導入する。
- エ 気門封鎖剤に展着剤を加用すると効果が落ちるため注意する（サフオイル乳剤は加用を推奨）。なお使用実績のない剤は、あらかじめ数株に散布して薬害の状況を確認する。
- オ 乾燥条件下になると天敵（カブリダニ類）の活動は抑制され、ハダニ類の活動は活発になるため乾燥条件にならないよう注意する。
- カ 天敵に長期間悪影響を及ぼす薬剤があるため、天敵の導入にあたっては薬剤の選定に十分注意する。
- キ 天敵導入後ただちに薬剤散布を行うと殺菌剤であっても天敵への悪影響が懸念されるため期間を空ける。また防除薬剤には展着剤も含めて天敵への影響が少ないものを選定する。
- ク 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」（<http://www.jppn.ne.jp/oita/>）の「いちご」「野菜類」の項を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに従って使用する。

ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita>

